

ひがしこぎさ  
東小笹遺跡

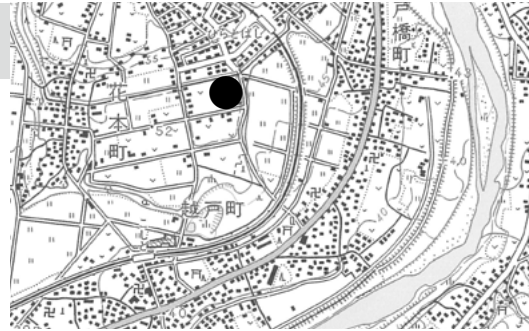
所在地 豊田市越戸町東小笹・西小笹  
(北緯35度06分46秒 東経137度11分00秒)

調査理由 国道153号線豊田北バイパス建設

調査期間 平成26年5月～平成26年10月

調査面積 2,000㎡・範囲確認調査100㎡

担当者 早野浩二



調査地点 (1/2.5万「豊田北部」)

**調査の経過** 発掘調査は国道153号線豊田北バイパス建設に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局名四国道事務所から愛知県教育委員会を通じた委託を受けて実施した。

**立地と環境** 東小笹遺跡は矢作川右岸の低位段丘(越戸面)東端に立地する。遺跡は愛知県教育委員会による試掘調査の結果、新規に登録された。遺跡南端は東小笹塚状遺構として登録され、遺跡には真言宗宝隆院境内が含まれていた可能性も想定されている。段丘南端には小笹古墳、上位の段丘(碧海面)には宇津木A遺跡、宇津木B遺跡、宇津木古墳が立地する。

**範囲確認調査** 範囲確認調査は遺跡範囲西側の調査対象地に計32地点の試掘坑を設定した。調査の結果、溝や土坑等の遺構が確認されたが、多くは旧水田に関する遺構である。縄文時代の打製石斧、古代、中世、近世以降の土器・陶磁器もわずかに出土したが、いずれも耕作土に伴う小片で、遺跡の存在を積極的に示すものではなかった。

**発掘調査** 発掘調査は段丘東端に調査区を設定した。調査の結果、時期や性格が明確な遺構は検出されず、調査区南東から南西の一部に低位面(籠川面)方向に傾斜する段丘斜面を確認した。調査区の大部分は基盤層が露呈し、遺跡は相当に削剥されていることが推察される。段丘斜面の堆積層は古墳時代以降の土師器、須恵器、灰釉陶器、中世陶器を少量包含するが、近世以降の陶器、瓦も混在する。古墳時代後期の鉄鏃も出土した。なお、宝隆院に関連する遺構・遺物は検出されなかった。

**まとめ** 今回の範囲確認調査、発掘調査の結果、遺跡の存在を積極的に示す遺構・遺物は検出されなかった。改めて範囲確認調査を実施し、遺跡の範囲をより正確に把握する必要がある。

(早野浩二)



図1 東小笹遺跡 調査区配置図 (1:2,500)